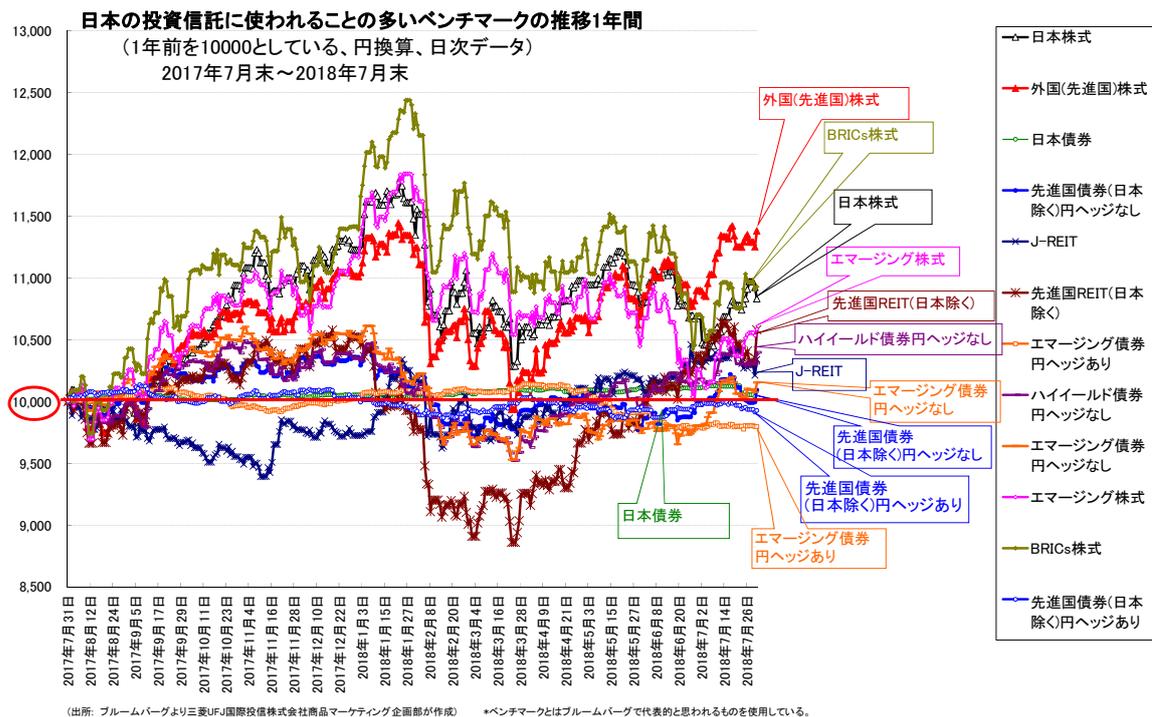


投信の最新動向

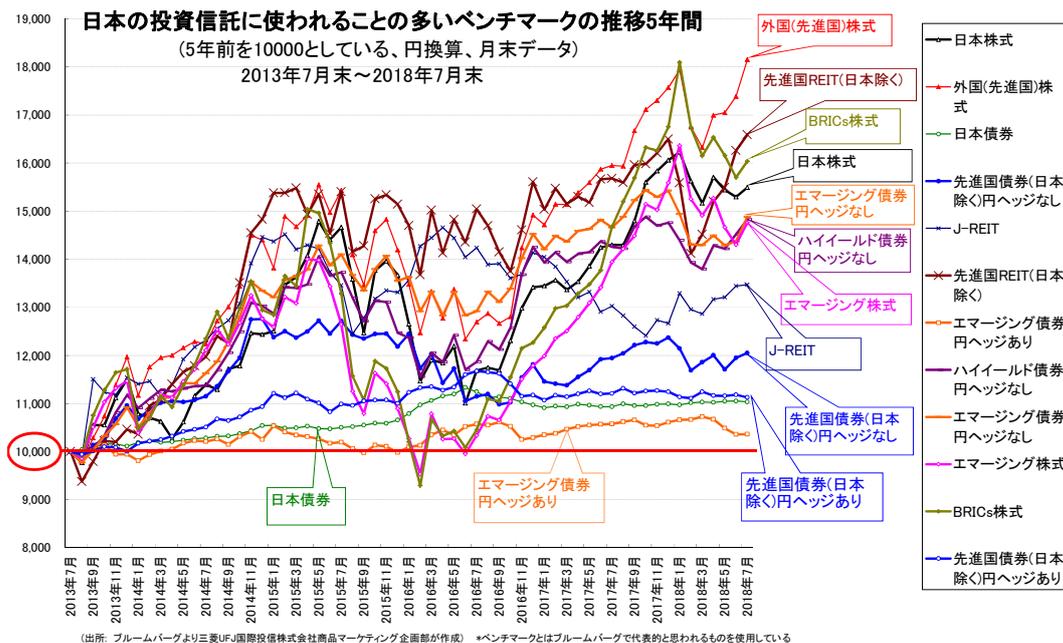
NISA/少額投資非課税制度でどの様な投資が行われてきたか。恒例となっている、つみたてNISAを含むNISAの投資対象となる投信(ETF含む)の最新2018年7月の動向を見る。NISAでの投資でその半数近くを占めている投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。

投信パフォーマンスの最新動向～先進国株式が1年、5年で最も良好～

まずは投信の最新パフォーマンスを見る。下記グラフは日本の投信に使われることの多いベンチマークの2018年7月末までの1年間のパフォーマンス推移である。1年のパフォーマンスの好い順に、先進国株式、BRICs株式、日本株式、エマージング株式、先進国REIT、ハイイールド債券円ヘッジなし、日本REIT、となっている(*1年前を10000としている、円換算、日次データ)。



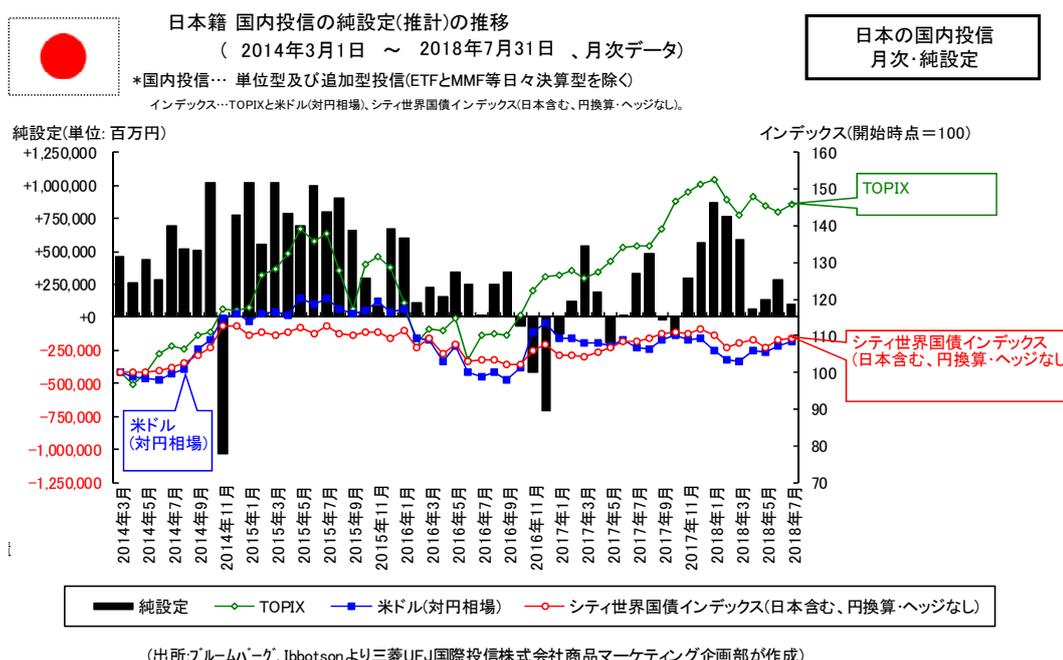
次頁上段グラフは上記グラフの5年のものである。5年のパフォーマンスの好い順に、先進国株式、先進国REIT、BRICs株式、日本株式、エマージング債円ヘッジなし、ハイイールド債円ヘッジなし、となっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスが1年、5年で(2018年7月1カ月でも)最も好い。尚、先進国株式のパフォーマンスは、2018年4月末からの3カ月では2番目、2018年1月末からの半年では4番目となっている。



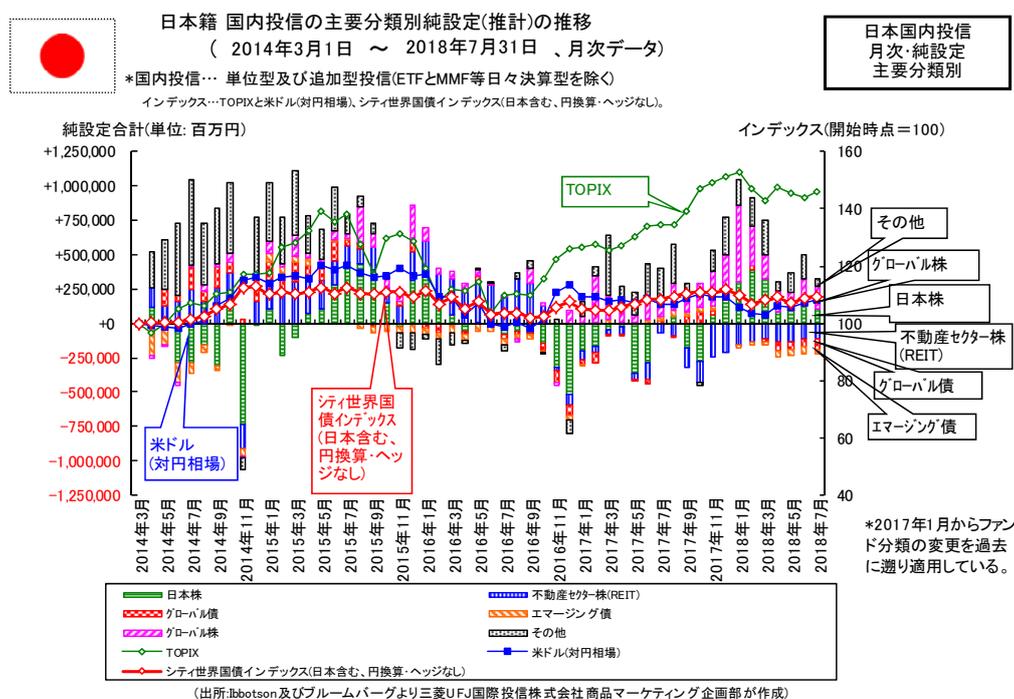
ちなみに、日本株のパフォーマンスは1年では3番目、5年では4番目に良かった(*2018年4月末からの3カ月では下から4番目、2018年1月末からの半年では下から3番目)。エマージング株式のパフォーマンスは3年で見れば3番目に良かったが、2018年4月末からの3カ月や2018年1月末からの半年で見ると最低だった。

投信フロー最新動向～既存投資家(投信全体)はグローバル株(4カ月連続1位)～

次に投信の最新フロー(純設定)を見る。NISA投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分けて見る事とする。NISAの「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、NISAの「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※1参照)で代替する。既存投資家(投信全体)の純設定は2018年7月に+990億円と、9カ月連続の純流入も2018年では4月(+626億円)に次ぐ2番目に小さな純流入だった。



今年 2 番目の小ささとなった 2018 年 7 月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。2018 年 7 月に最も純設定の大きかったのはグローバル株(4 月から 4 カ月連続 1 位)、日本株(同 2 位)、アセットアロケーション慎重型(5・6 月 4 位)、米国大型ブレンド株(同 6 位)、マルチオルタナティブ(前月 6 月 11 位)(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスターによる分類で 2017 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。アロケーション型及び米国大型ブレンド株、マルチオルタナティブは「その他」に含む)。



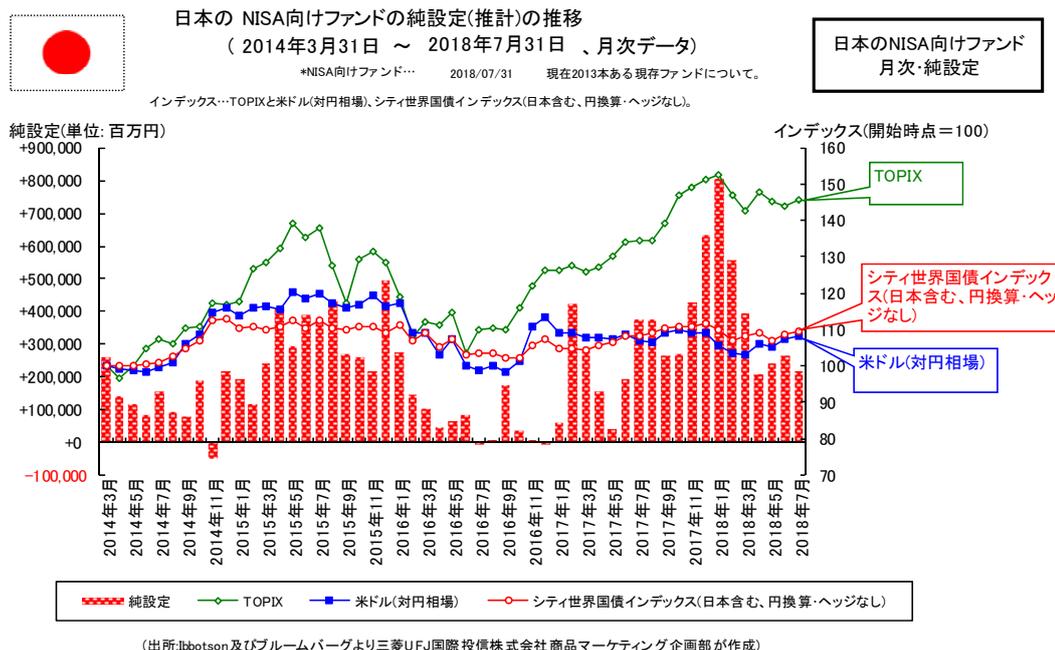
既存投資家(投信全体)で、2018 年 7 月に純設定が最も大きかったグローバル株だが、2017 年の年間(1~12 月)に約 2 兆円という最も大きい純流入があり、2018 年は 7 月までに約 1.7 兆円と流入が続いている。最新 2018 年 7 月の純設定は+1693 億円と、前月 6 月(約+2000 億円)を下回るものの 1 年 8 カ月連続の資金純流入だ。

2018 年 7 月にグローバル株に次いで純設定の大きかった日本株は、2017 年の年間(1~12 月)に約 1.2 兆円という純流出から、2018 年は既に 7 月までに約 1.5 兆円の純流入となっている。最新 2018 年 7 月の純設定は+1035 億円と前月 6 月(約+1000 億円)とほぼ同水準で、2017 年 11 月から 9 カ月連続の純流入である。

2018 年 7 月に 3 番目に純設定が大きかったアセットアロケーション慎重型は 2017 年の年間(1~12 月)に約 2817 億円が純流入で、2018 年は 7 月までで既に同程度(2826 億円)の純流入となっている。最新 2018 年 7 月の純設定は+545 億円と、2014 年 5 月以降 4 年 3 カ月連続の純流入のなか、2018 年 5 月から加速、3 カ月連続で 500 億円台の純流入である。

投信フロー最新動向～新規投資家(NISA 向けファンド)もグローバル株(10 カ月連続 1 位)～

新規投資家(NISA 向けファンド)の純設定を見る。純設定は、最新 2018 年 7 月に+2161 億円と、2017 年 1 月から 1 年 7 カ月連続の純流入である。今年 2018 年 1 月に約 8000 億円と、NISA 投資開始(2014 年 1 月)以来で最大となったが、その後、減速して 4 月から 4 カ月連続で 2000 億円前後の純流入である。



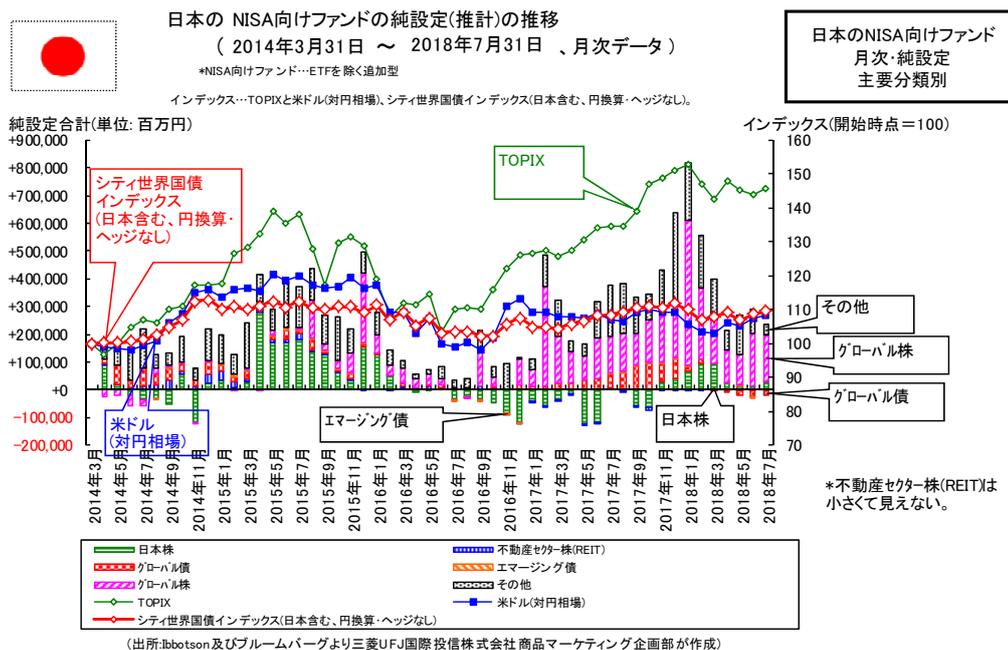
※1: 「NISA 向けファンド」…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]③参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」とも言っている(URL は後述[参考ホームページ]④参照)。

尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単体型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2018年7月31日時点で2013本となった。

この新規投資家(NISA向けファンド)を投資対象(主要分類)別で見ると、最新2018年7月の純設定1位はグローバル株(前年2017年10月から10カ月連続1位)、2位は日本株(前月6月5位)、3位アセットアロケーション柔軟型(2018年3月から6月まで4カ月連続2位)、4位はアセットアロケーション慎重型(前月6月6位)、5位は中国株(前月6月3位)だった(下記グラフ参照、主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション型と中国株は「その他」に含む)。



グローバル株は前年からの好調な純流入が継続中だ。既存投資家(投信全体)と同様、2018年7月に純設定最大だったグローバル株は+1685億円と、1年11カ月連続の純流入。2018年の年初来でも、純設定1位である。2番目に純設定の大きかった日本株は+277億円と9カ月連続の純流入、3番目に純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型は+232億円と、NISA導入以降4年7カ月連続純流入であるものの、2016年11月(+112億円)以来の小ささで、鈍化傾向。代わってアセットアロケーション慎重型が7月は+138億円と2017年3月(+149億円)以来の大きさと、加速傾向(←6月+111億円←5月+93億円←4月+54億円)。

アセットアロケーション型は、バランス型(または資産複合型)とも呼ばれ、アセットアロケーション慎重型は、様々な資産クラスに分散投資を行うアロケーション型の中でも、株式の組入比率が相対的に低いものである。アセットアロケーション慎重型への純流入が増えていることについては、「バランス型の中でも基準価格の下落率の最大値(最大下落率)が小さく、下げ相場でも守りに強いファンドをランキングした。…(略)…。上位には国内外の債券を多めに組み入れ、リスクを抑えたファンドが目立った。」(2018年8月9日付日本経済新聞)と報じられている通りである(URLは後述[参考ホームページ]⑤参照)。また、「バランス型の人気の理由の一つは、米中貿易摩擦や米金利上昇などで先行きに不透明感が強まっていることだ。特定の資産の比率を高める投資手法のリスクが高まってきたとみる個人投資家が、リスク分散を狙って資金を振り向けている。」(2018年8月6日付日本経済新聞夕刊)とも報じられていた(URLは後述[参考ホームページ]⑤参照)。

投信フロー最新動向～つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)は日本株(2カ月連続 1位)、グローバル株が実質 1位(7カ月連続 1位)～

最後に、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)の純設定を見ておく(*つみたて NISA 適格投信なので、つみたて NISA 以外で購入された分も含む、ETFを除く～つみたて NISA 適格投信については後述[参考ホームページ]⑥参照)。

純設定は、最新 2018年7月に+361億円と、つみたて NISA が開始した 2018年1月から7カ月連続の純流入である。今年 2018年1月に約 1320億円と、つみたて NISA 投資開始(2018年1月)以来で最大となったが、その後、減速して4月から4カ月連続で500億円割れの純流入である。

このつみたてNISA 投資家(つみたてNISA 適格投信)を投資対象(主要分類)別で見ると、最新 2018 年 7 月の純設定 1 位は日本株(6 月から 2 カ月連続 1 位、1 月～3 月も 1 位)、2 位はグローバル株(6 月から 2 カ月連続 2 位、4・5 月は 1 位、1 月～3 月は 2 位)、3 位アセットアロケーション積極型(1 月から 7 カ月連続 3 位)、4 位は米国大型株(2 カ月連続 4 位)、5 位はエマージング株(前月 6 月は 6 位)だった(主要分類…モーニングスターによる分類)。

ただ、日本株人気はつみたてNISA 以外の可能性が高い。 つみたてNISA が開始して以来の、つみたてNISA 適格投信全体の純設定累計+4359 億円の約 40%(+1752 億円)を一つの日本株ファンドが占めており、そのファンドは、つみたてNISA 開始前(2017 年 6～12 月まで 7 カ月)に+2192 億円の純設定で、これは、つみたてNISA 適格投信全体の純設定累計+3697 億円の約 59%を占めている。

このファンドの販売会社は地銀を中心に 60 行・社を超えており、ほとんどは、販売手数料を課している為(*今年から取り扱いを始めたメガバンクや大手証券は「つみたてNISA」専用だが)、引き続き地銀等の人気は高く、つみたてNISA のシェアは小さい可能性が高い。 加えて、同ファンドは海外株式比率も高めており、日本株ファンドとも言い切れない部分もある。 その意味で、つみたてNISA 投資家(つみたてNISA 適格投信)もまたグローバル株が実質 1 位と推測される。

以上、既存投資家(投信全体)でも、新規投資家(NISA 向けファンド)でも、つみたてNISA 投資家でも、つみたてNISA 投資家(つみたてNISA 適格投信)でも、グローバル株が人気で、つみたてNISA 投資家では日本株も人気である事がわかった。

今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URL は後述[参考ホームページ]⑦参照)が多いと思われるNISA 等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

①金融庁「NISA・ジュニアNISA 口座の開設・利用状況調査」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/datacollection/index.html>」

②2018 年 1 月 12 日付日本経済新聞電子版「つみたてNISA 開始、大手ネット証券が独走か」…

「<https://r.nikkei.com/article/DGXMZO25520390Q8A110C1000000?type=my#AwAUAgAANTc30Dc2>」、2018 年 1 月 15 日付日本版ISA の道 その 210 「「つみたてNISA」が本格スタート! 申込 25 万件!! NISA 導入以来で最大の純流入となった新規投資家(NISA 向けファンド)で 12 月はグローバル株やエマージング株、アセットアロケーションが人気!!!」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_180115.pdf」

③2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」

④2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…

「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」

⑤2018 年 8 月 9 日付日本経済新聞電子版「(投信番付)守りに強いバランス型は 債券多めのタイプ上位」…

「<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO33989050Z00C18A8ENI000/>」、2018 年 8 月 6 日付日本経済新聞夕刊「株・債券・不動産・金…バランス投信に勢い 1～7 月 7900 億円流入、貿易摩擦でリスク分散」…

「<https://r.nikkei.com/article/DGKKZO33840750W8A800C1MM0000?type=my#AAAoAgAAMA>」

⑥)2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、

⑦)2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…

「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。